

# まち地域づくりファイル

大崎市流地域自治組織による地域づくりが始まって10年が経ちました。これまでに  
行われてきた、地域や地区の特性を生かした個性あふれる地域づくりを紹介します。

## 4 田尻地域 大貫かんぼやま委員会

### 若者たちの参画が 地域づくりを持続可能にする

#### 地域づくり共通の課題

人口の減少や流出が進むいま、次代を担う後継者の確保と育成は、地域づくり共通の課題です。田尻地域大貫地区の「かんぼやま委員会」も、平成18年の発足以降、同様の悩みを抱えていました。

いっそのこと、地区行事になぜ参加しないのか、若者たちに直接聞いてみてはどうか。平成21年8月、地域の20代から40代前半の25人を集め、全3回にわたる「お祭りワークショップ」と題した話し合いの場が設けられました。

#### 話し合いが、若者たちの心に火を灯す

ワークショップでは「地区の行事は高齢者ばかりで若者向けではない」などの率直な意見が多く出された一方で、「地域の同世代にこんな人がいたんだ」とつながりが生まれる場となり、回が進むにつれ「大間のマグロを釣って大宴会をしよう」など、実現



▲お祭りワークショップに集まった大貫地区の若者たち

可能か不可能かは関係なく、誰もが遠慮や気兼ねのない、実に楽しい話し合いが行われました。

かんぼやま委員会は、この話し合いを今後の地域づくりの参考にしようと考えていましたが、それよりも先に、大貫地区の今とこれからを共に考えた若者たちの心に火が灯りました。「これからの大貫をなんとかしていきたい」「昔、青年団が行っていた地区の夏まつりを復活させよう」ワークショップ参加者たちが中心となり、地区青年組織「大貫衆十壱組」が結成されました。

#### 38年ぶりに夏まつりを復活

翌年、「大貫衆十壱組」メンバーは、実に38年ぶり

となる「かんぼやま夏まつり」復活に奔走しました。仕事の合間をぬって、事前にチケットを売りさばき、ステージを自分たちの手で組み上げ、屋台を設置するなど、着々と準備を進めました。

当日は無情にも雨が降りだしましたが、雨にめげることなくまつり運営に奔走する若者たちの姿は、多くの地区民の胸を打ちました。雨にも関わらず、大きな盆踊りの輪ができ、若者たちが繰り広げるステージ発表に大きな拍手が送られ、38年ぶりの夏まつりは盛会裏に終了することができました。

#### 地域づくりは楽しい

夏まつりは、昨年で7回目を数え、自分たちが参加したくなるまつりは、子どもから高齢者までみんなが楽しめるまつりとして根付きました。そして何よりも、若者たち自身が地域を知り、地域づくりの楽しさに気付くきっかけとなりました。

現在、「大貫衆十壱組」は、まつり運営ばかりでなく、地区課題解決に主体的に取り組み、大貫地区の地域づくりに大きな役割を果たしています。

▲地域づくりを楽しみながら、大貫地区を盛り上げていく

さらに、この流れは田尻地域全体へと波及し、地区の垣根を越えて持続的な地域づくりを進める青年組織「360°-ON-TAJIRI(さびろく・おん・たじり)」結成へと結びついています。



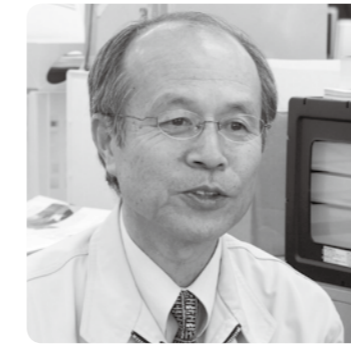
▲まつりの締めは大貫衆十壱組の伝統となった「よさこい踊り」



# 10 year story 年物語

～おおさき人の軌跡～

10年を振り返り 新たな10年へ歩みだす



青少年のための大崎市民古川会議  
会長 小野寺 昌之 さん

#### 活動の概要

青少年の健やかな育成に資することを目的に、平成12年に「青少年のための古川市民会議」が設立される。平成18年、大崎市誕生とともに「青少年のための大崎市民古川会議」に名称を改め、地域づくり委員会、協力団体などの代表者で構成。各種事業を通じて、地域による子どもたちの健全育成を支援している

## 地域で子どもたちの育みを支えるために

### ～ 青少年のための大崎市民古川会議 ～

地域の宝である子どもたちを健全に育成するためには、家庭や学校だけでなく、地域社会が子どもたちの育みにいかに関わり、支えていけるかが大切です。

青少年のための大崎市民古川会議では、地区会活動や学童保育への支援、会報誌「きらきら」の発行のほか、毎年、「青少年健全育成古川大会」を開催しています。子どもたちや保護者の意見発表、さまざまな経験を積まれた講師をお招きしての講演会など、子どもたち、保護者、学校そして地域の皆さんが「つながる場」を目指しています。

わたしがPTA活動に参画していたころは、授業中に教室を抜け出してしまうような、いわゆる「やんちゃな子」が少なからずいました。今にして思えば、基礎的な理解が進まないまま授業についていくことが苦しかったのではないかと。ゆっくりでいいから、理解のステップを着実にのぼり、分



青少年健全育成古川大会の様子

なかったことが分かった時の喜びを重ねることが大切だったのではないかと思います。こんなことも、地域と学校が連携する中で率直に提言できるかもしれません。

組織や規約の見直しを行い、現在の組織形態となってきましたが、わたしたち自身、理想を追うだけの絵に描いた餅にならないよう、「地域の子どもは 地域で育てよう」のスローガンのもと、関係団体・機関との横のつながりを密にしながら、子どもたちを育む地域活動を支えていきたいと思

## 消費生活の不安を無くしたい

### ～ 古川消費者の会～

わたしたち古川消費者の会は、時代の変遷とともに、暮らしに関わるあらゆる疑問や不安を考え、消費者として、主婦としてその目線を活かし、生活の向上を目指して活動をしてきました。

発足当時、着色料や食品添加物が大量に使用された駄菓子などが当たり前のように販売されており、不信感を抱えた消費者が数多くいました。当時は、今ほど食品添加物や農薬に対する世間の認識は低く、食品メーカーが売り出した商品の問題性を訴え



消費生活相談員が毎年3回開催する消費生活講座の様子

ることは、世間を騒がすことでもありました。

会員が食品添加物の排除運動へ取り組みだすと、「騒ぎ鳥」だと揶揄する人もいました。しかし、安心して安全な食材を食べ、健康に暮らしたいという思いは、誰しもが持っており、人が人を呼び、食の安全を求める気運が高まっていきました。

会員が一丸となって運動を続けたことで、活動は徐々に広がり、今では、消費生活に係る問題を気軽に相談できる窓口が市役所に設置されています。

女性の社会参画が難しかった時代に、家族の理解や仲間との連携なしでは成り立たなかったものであり、感謝しきれません。

情報化社会といわれる現代でも、社会に対する不安や疑問は絶えずあります。消費生活における安全性を訴え続けてきた、わたしたちの活動が、市民の安心につながることを願っています。



古川消費者の会  
顧問 西川 千恵子 さん

#### 活動の概要

昭和40年、「古川消費者の会」の基盤となる「古川生活学校」が発足。生活を豊かにする知恵を学ぶ生活学校は、宮城県で初めて誕生し、女性の社会参画や消費生活の安全性を求める気運を高めた。その活動は、市町村に消費生活相談員が配置されるきっかけのひとつとなっている。